

# 令和4年度 学校評価【自己評価】結果

いわき市立平第三中学校

\*【別紙1】保護者アンケート結果、【別紙2】生徒アンケート結果 参照

## 1 学校運営全般（開かれた学校等）について

○ 新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度同様に授業参観や学校行事など保護者に生徒の様子を公開する機会が少ない状況のため、ホームページ等により保護者や地域に積極的に情報を発信し、可能な限り「開かれた学校」となるように努めてきた。

保護者アンケートにおいて、「保護者や地域に学校の教育活動や生徒の様子について積極的に情報を発信すること」、「メール配信や文書等により家庭への連絡や情報提供をきめ細かく行うこと」は、ともに93%以上の肯定的評価が得られた。今後も100%を目標にして積極的な情報の提供・発信に努めていく。

○ 昨年度と同様に新型コロナウイルスの感染拡大により、教育活動に様々な制約があったが、感染症対策を講じながら可能な限り特色ある教育活動が進められるよう努力してきた。「感染症対策と特色ある教育活動との両立」について保護者アンケートでの肯定的評価は93.3%であり昨年度(94.3%)と同程度の理解は得られていると判断できる。

▲ 「保護者がいつでも学校を訪れたり相談したりすることのできる雰囲気」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあると思われるが、肯定的評価は79.9%と他の項目よりも低い結果となった。今後も家庭との連携を密にし、保護者や地域の期待や願いに応えられるような教育活動を推進していく所存である。

## 2 学習指導等

○ 「生徒の思考力、判断力、表現力を高めるためのICT機器の効果的な活用」を現職教育テーマとして、授業改善および生徒の学力向上に取り組んできた。保護者アンケートでは「授業の充実を努め、生徒の学力向上を図っている」の項目で91.5%、生徒アンケートでは「わかりやすい授業となるようにわからないところをていねいに教えてくれる」の項目で、91.3%の肯定的評価を得ている。生徒アンケートでの「先生は電子黒板やパソコンなどのICTを活用して授業が充実するよう努めている」の項目では88.5%の肯定的評価を得た。

▲ 本校生徒の学力は、おおむね県平均以上を維持している。全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査では、知識を活用する能力、根拠立てて説明する能力等が課題であるため、次年度もICTをさらに有効活用して授業の充実を図り、課題解決を図りたい。

【学力の実態】

◇全国学力・学習状況調査（3年） 国語、理科は全国・県平均を上回り、数学は同程度の結果であった。  
（R4は国語、数学、理科を実施）

◇ふくしま学力調査（1・2）年 国語・数学とも県平均を上回る。

◇学力テスト（全学年） 1, 3年生はすべての教科で県平均を上回る。

2年生は国語、英語、理科が県平均を上回り、数学が同程度、社会がやや下回る。

■ 「意欲的に学習に取り組んでいる」についての肯定的評価は、保護者アンケートでは74.1%、生徒アンケートでは71.8%にとどまっている。しかし、日常の授業では生徒は意欲的に学習に取り組んでいる。また、全国学力・学習状況調査やふくしま学力調査の生徒質問紙調査結果では、学習への意欲や勤勉性に関する項目で全国・県の平均値を上回っている。生徒のよさを生かし、分かる授業の実践、授業を通して知的好奇心を高める工夫を一層推進し、さらに学習意欲を高めていくとともに、生徒の自己効力感を高めていきたい。

### 3 生徒指導・心の教育

- 学校では、基本的な生活習慣の確立、思いやりや協力、社会のルールを守る態度などを重視して指導するとともに、管理教育に偏ることなく生徒の主体性や判断力を育てる教育に努めてきた。保護者アンケートにおいては「学校は思いやりや協力、社会のルールを守る態度等、心を育てる指導を行っている」の項目で91.5%、「家庭では、しつけや基本的な生活習慣などを重視して指導している」の項目でも95.7%が肯定的な回答をしている。生徒アンケートでも92.9%が肯定的な回答をした。今後も、学校と家庭が共通理解を図りながら連携した指導を継続し、生徒の心身ともに健やかな成長を促したい。
- 学校の教育活動全体を通して行う道徳教育では、人権尊重やより良い人間関係の醸成を中心に指導の充実を努めた。道徳科の授業は、学校へ行こう週間において授業研究会の様子を保護者等へ公開することができた。今後は、担任以外の教師による授業など、多様な指導や考え、価値に触れる場面を多く設定し、より授業を充実させたい。
- ▲ 軽微ないじめに該当する事案や友人関係のトラブルはあるものの、組織で対応することにより、早期発見・早期対応に努めてきた。深刻な問題に発展する前に一定の解消が図られている。「一人ひとりの子どもの理解に努め、適切に対応や指導を行っている」の項目は肯定的評価が86%であった。多様化する生徒・保護者の意識や価値観に対応しながら、生徒理解・家庭環境等の理解に努め、トラブルの未然防止、個に応じた指導や支援を充実させたい。

### 4 教育相談・教師と生徒の関係

- ▲ 生徒アンケートにおいて「困ったときや悩みごとがあるときに相談できる先生がいる」の肯定的評価は65.9%が肯定的な回答をした。生徒や保護者との相談環境を明確に示すとともに、相談しやすい環境づくりに努め、生徒や保護者の心情に寄り添った教育相談を進めていきたい。

### 5 生徒の活動について

- 生徒の活動について、「ルール、マナー等を意識した生活」、「諸活動へ積極的に参加したり役割を果たすこと」、「好ましい交友関係」等の項目は、保護者・生徒ともに肯定的評価が高く、学校生活も落ち着いている。今後も共通認識のもとで継続していきたい。
- ▲ 「学校生活は楽しく充実している」の項目で、生徒のアンケートでは87.5%が肯定的な回答をした。学校が生徒にとってさらに魅力的で安心できる場所となり、肯定意見が100%に近づくよう努力していきたい。
- ▲ 「生徒の自己肯定感を（昨年度より）さらに高めること」を今年度の重点目標として教育活動を行ってきた。生徒アンケートの結果では、「自分にはよいところ、個性や特技が生かせるところがある」の項目は肯定的な回答が72%であった。「自分には将来の夢や目標がある」の項目は、67.3%と他の項目よりも低い結果となった。次年度は生徒の自己効力感を高めることを重点目標として、生徒が主体的に考え判断して行動する力、固定観念にとらわれずに創造する力、自己表現する力を高める指導を充実させ、そのプロセスにおいて、自分の能力に自信をもって表現したり行動したりする力を育成していきたい。